

# はあと ねつと

Heart Net

岩見沢市立総合病院  
広報誌 2019年3月発行

Vol.  
10

特 集

認知症ケアチームの活動

TAKE  
FREE

ご自由にお持ち帰り  
ください



撮影：西村真人さん

- ご挨拶
- 職場紹介：リハビリテーション科
- レポート：リンパ浮腫外来
- 特集：認知症ケアチームの活動
- 健康レシピ：酒粕豚汁
- 病院からのお知らせ など

岩見沢市立総合病院ホームページ  
<http://www.iwamizawa-hospital.jp>

ご挨拶

医療安全について

医療安全管理者 小林 紀子



地域の皆様、こんにちは。医療安全管理者の小林です。私は、平成28年4月から医療安全管理者として医療安全対策室のメンバーと一緒に、当院の医療安全活動を推進しています。

当院では、医療基本理念である「患者さまとの相互信頼関係に基づく良質な医療の提供」を実現するために、医療安全対策室が中心となり様々な医療安全活動を行っています。

医療安全対策室は、医療安全担当副院長（医師）、医療安全管理者（看護師）、医薬品安全管理者（薬剤師）、医療機器安全管理者（臨床工学技士）、事務員で構成されています。月に1回の医療安全管理委員会とセーフティマネージャー会では、当院で起きたインシデント・アクシデントの原因を究明し、今後の対策について考えています。委員は、対策が実行されるように、話し合いの結果を、それぞれの部署に伝達しています。さらに、セーフティマネージャー会では医療安全管理について学習する場となっています。万が一、医療事故が発生した場合は、病院幹部で構成される医療事故対策委員会を開催し、患者さんご家族への対応や同様の事故が発生しないよう医療安全対策について話し合い、迅速に対応できるようにしています。

また、もうひとつの大事な医療安全の活動として、全職員が医療安全に取り組むことができるように、院内講師や院外講師を招いて、医療安全研修会を年に数回行っています。

私たちは、これからも地域の皆様に信頼され、良質な医療を提供できることを目標に「安全・安心」をモットーに医療安全に取り組んでいきたいと思ひます。皆様のご意見等を大事にしながら、看護・医療の充実が図られるよう、今後も活動を推進していきたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

最近の取り組み

医療安全に関するマニュアルの整備・活用
医療安全体制の構築（改善）＊小集団活動の充実
医療安全研修会への参加の啓蒙活動
医療安全に関する職員の意識調査
電子カルテ導入に伴い インシデント・アクシデントレポート作成システム導入
説明・同意書の整備
臨床倫理検討委員会の発足に向けた取り組み

・・・など

多職種で協力し合って作成しました。

身体拘束マニュアル

岩見沢市立総合病院 医療安全対策室

セーフティマネージャー会 活動報告会



セーフティマネージャーが医療安全対策について小集団で活動した成果を報告する会です。みなさん、上手にまとめていました。そして、その対策は現場で活かされています。

医療安全研修会



麻酔科の医師が講師として「アナフィラキシー対応について」の研修会を行った時の会場の様子です。院内で起きた症例の紹介もあって、みんな真剣に聞いていました。

医療安全ニュース



院内に向けて、医療安全に関する情報を届けようという目的で、月に1回発行しています。医療安全の一つとして、地震対応の事もニュースにしました。

# 職場紹介

## リハビリテーション科

リハビリテーション科技師長  
作業療法士 鈴木光広

リハビリテーションという言葉は、聞き慣れた言葉となっていますが、その本来の意味は、さまざまな病気や障がいにより、生活に支障をきたしている方に対して、その軽減をはかりながら、より豊かな生活が過ごせるように、ご本人やご家族と共通の目標をもちながら、関係するさまざまな職種やひとがチームを組んで支援する過程を示しています。

現在、東京オリンピックの機運が盛り上がってきていますが、その5年後には、第一次ベビーブームが起きた時期に生まれた世代、いわゆる団塊の世代の方が、75歳以上の後期高齢者になる2025年という時期を迎えます。医療や介護の需要がさらに増加することが見込まれる2025年に向けて、対象者が自立支援の目的のもとに可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしが続けられるように支援・サービスの提供体制の確立が急がれています。

私達の科でも、そうした流れを踏まえながら、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が協力し、ご本人が持てる能力が最大限に発揮できるよう、そして自分らしい生活や暮らしができるように、ご家族を含めて、病院にあっては、医師や看護師、ソーシャルワーカーなどと、病院以外にあっては、介護支援専門員（ケアマネジャー）や介護サービス事業者の方などと連携を取りながら、個々の状況に応じたリハビリテーションを進めています。



笑顔がモットーのリハビリテーション科スタッフ

### 当院のリハビリテーションの特徴

私達の科の特徴の一つは、身体障がい領域と精神障がい領域の両方の施設基準を有し、広くリハビリテーションを行っていることにあります。総合病院ならではのこともありますが、道内の自治体病院の中でも数少ない病院の一つです。現在、多くの診療科からリハビリテーションの依頼を受けながら、互いに協力しながら業務を進めています。

私達の病院は、急性期のリハビリテーションという立ち位置ではありますが、早期から運動機能（体の力や動きなど）、認知精神機能（頭のはたらきなど）、摂食嚥下機能（飲み込む、食べるなど）、心理機能（安心やこころの安定など）などの改善だけではなく、身の回りの動作（歩く、トイレ、着替えるなど）や入院される前の生活動作の回復にむけて、必要に応じて退院後の生活環境の確認や調整、介護保険・福祉サービスとの連動を進めながら、より早くご本人にあった生活に繋がれるよう努めています。

また理学療法士、作業療法士の各養成校の臨床教育施設の指定を受け、次世代の療法士の育成にも務めています。平成26年度には、今後、ますます増えることが予想される認知症の人に対して、専門職という立場だけからではなく、地域で暮らす一人として良き理解者でありたいという願いから、養成講座を開催し、スタッフ全員が認知症サポーターにもなりました。

### リハビリテーションの実際

#### 1. 身体障がい領域のリハビリテーション

（脳血管疾患等・運動器・呼吸器・がん患者・廃用症候群リハビリテーション）：

主に脳卒中などの脳血管疾患や骨折・外傷などの整形外科疾患、慢性閉塞性肺疾患などの呼吸器疾患や各種がん罹患された方などに対して支援を行っています。また必要に応じて、退院前のご自宅への訪問による生活環境の確認や調整も行っています。その他、栄養サポートチーム、褥瘡対策チームなど他職種連携チームへの参加も行っています。



言語聴覚療法エリア



理学療法エリア



作業療法エリア

#### 2. 精神障がい領域のリハビリテーション

（精神科作業療法、精神科デイケア・ショートケア、精神科訪問看護）：

主に統合失調症や認知症、躁うつ病などに罹患された方に対して支援を行っています。また看護師や精神保健福祉士と協力しながらご自宅への訪問支援も行っています。その他、小児科医と連携したお子様の発達障害への支援や認知行動療法に基づく生活支援プログラムも進めています。



精神科デイケア・ショートケアエリア



精神科作業療法エリア

以上、簡単な職場紹介でしたが、更に詳しいことについては、病院のホームページにも紹介しております。私達は、少しでもこの地域に暮らす皆様が自分らしく過ごせるように、自分自身が持つ知識や技術を通じて、少しでもお手伝いさせて頂ければと思っております。これからもよろしくお願いいたします。

リンパ浮腫は、手術でリンパ管やリンパ節を切除したり、放射線治療によりリンパ管が細くなったり途切れたりすることで、リンパ液の流れが悪くなり、リンパ液が皮下にたまる状態です。手術後比較的早めから発症する人もいれば、10年以上経過してから発症する人もいます。リンパ浮腫は進行すると、完治が困難です。そのため予防を心がけて発症を防ぎ、万一発症しても早期に発見・治療することで、重症化を防ぐことができます。

## リンパ浮腫外来では

リンパケアチームメンバーの看護師が、次のような活動をしています。

### 「リンパ浮腫予防指導」

当院で上記の手術を受けたあとに手や足がむくんでいないか、リンパ浮腫の発症をできるだけ防ぐ日常生活を送られているかを確認するために、退院後の外来受診をお勧めしています。



### 「リンパ浮腫発症後の方へのケア」

スキンケア方法やセルフマッサージの指導、症状に合わせた圧迫療法やマッサージなどを行っています。

最近は美容リンパドレナージという言葉を目にする機会があるかと思いますが。美容と医療では同じ名称でも内容が異なるため、注意が必要です。乳がん・子宮がん・前立腺がんなどによる手術を受けたり、放射線治療を受けた後遺症で、手や足にむくみがあり、腕が重かったり歩きにくいなどお困りの方は、主治医へご相談された上で、リンパ浮腫外来の受診をおすすめします。

これからも認知症ケアチームは患者さんの安心、安全な入院生活を見守り、適切な治療、早期の退院を目指せるよう全力で活動させていただきますのでよろしくお願いいたします。なお、チームスタッフより患者さんご本人やご家族に対して入院前の生活状況などをお伺いすることがありますのでご協力お願いいたします☆



12月20日に開催したリンク会での様子。グループワークに一生懸命取り組んでくれています。



当院の認知症ケアチームは、平成28年11月より活動を開始しました。今回の特集では、3年目に突入した認知症ケアチームの活動をご紹介します。



精神科医師、認知症看護認定看護師、病棟看護師、精神保健福祉士といった複数の職種スタッフから構成されております。



高齢の方や認知症を患う方はさまざまな変化に適応しにくいいため、入院に伴う環境の変化や身体疾患を患うことによって、せん妄と呼ばれる症状を起こしたり、認知症の症状の悪化を招いたりすることがあります。

それぞれの病棟と連携し、症状の悪化を予防することや身体疾患の治療を円滑に受けられるよう環境調整やコミュニケーションの方法を検討することを目的としたチームのことで。



## 認知症ケアチームとは？

## 活動内容

より質の高い医療を提供するために、主治医や病棟スタッフと協力しながら、患者さんへの対応力やケアの向上を図ることを目指しています。

### ① 病棟巡回(毎週木曜日)

- ・認知症の診断や薬剤調整の助言
- ・認知症の行動心理症状(予防)に対する環境調整、ケアの提案
- ・今後の生活についての支援など

### ② 院内研修

### ③ リンクナース会活動(月1回)

**リンクナースとは？** 各病棟から看護師を1名ずつ選出、認知症ケアチームと各病棟との連携の要の存在。認知症ケアチームから得た知識や情報を各病棟に伝達をする大事な役割を担ってもらっています。



# 酒粕豚汁

栄養科 川尻 有貴子



## One Point

・酒粕の「酒粕分解ペプチド」と生姜の「ショウガオール」には、血流を改善し体を温める効果があり、寒い日や冷え性の方におすすめの一品です。  
 ・酒粕と生姜は、お好みの量に調節していただいても結構です。

### <材料> 4人分

- さつまいも……………100g
- 豚ばら薄切り肉…100g
- 大根……………100g
- 人参……………80g
- さつまいも……………100g
- ごぼう……………60g
- しめじ……………100g
- 木綿豆腐……………100g
- こんにゃく……………80g
- 油揚げ……………20g
- 油……………4g
- 水……………800cc
- 顆粒だし… 小さじ1杯
- 酒粕……………60g
- みそ……………60g
- 生姜……………20g
- 長葱……………20g
- 一味唐辛子……………少々

### <作り方>

1. 豚肉は一口大に切る。・大根、人参は3～4mm幅、さつまいもは1cm幅のいちょう切りにする。・ごぼうはさがきにし、水にさらしてアク抜きをする。・しめじは石づきをとり、小房に分ける。・豆腐は一口大のさいの目に切る。・こんにゃくはスプーンで一口大に切り、さっと茹でる。・油揚げは熱湯をかけて油抜きし、短冊切りにする。
2. 油で熱した鍋におろし生姜を加え、豚肉とごぼうを炒める。・肉の色が変わったら、大根、人参、さつまいもを加え、さらに炒める。・全体に油がまわったら、しめじ、こんにゃくを加えてさっと炒め合わせる。
3. 水を加え、煮立ったらアクを取り、具材が柔らかくなるまで煮る。
4. 豆腐と油揚げを加え、だし、酒粕、みそを順番に入れ、煮汁で溶きのばして加える。
5. 器に盛り、長葱（小口切り）を散らし、好みで一味唐辛子をふる。

## 管理栄養士による

# 減塩料理教室の様子

当院では、減塩食（糖尿病食を含む）をお召し上げりの入院患者様・またはそのご家族を対象に管理栄養士による減塩料理教室を月2回（第2木曜日・第4火曜日）行っております。

高血圧の方はもちろん、糖尿病や心臓病などの生活習慣病をお持ちの方も、塩分の摂りすぎを抑え、病状の悪化を予防する必要があります。高血圧学会では予防の観点から1日の塩分摂取量を6g未満に抑えることを推奨しています。

### 料理教室では

- 「塩分の多い食べ物とは」
- 「減塩に繋がる食事のひと工夫」
- 「減塩料理の作り方」

を紹介してから実際に減塩の

工夫がされている料理を管理栄養士と一緒に作り、最後に試食をします。



推奨されている1日塩分6g未満（1食当たり塩分2g）とは一体どの程度なのか。どのような工夫をしたら塩分を減らすことができるのかなど、調理・試食を通して体験してもらいます。



参加された方々からは、思っていたほど薄味ではない、減塩でも物足りなく感じない、家でも作ってみたいという声を頂きます。減塩と聞くと味が薄いというイメージがありますが、調理方法や調味料の選択などをひと工夫するだけでおいしく減塩が出来ます。言葉だけでは分かりにくい部分を料理教室で体験し、退院後の食事に活かして頂きたいと思っています。

## 入院時支援窓口の開設のお知らせ

平成30年11月から1階中央ロビー横のブースにて、「入院時支援窓口」を開設いたしました。当院に入院予定の患者さまに、地域医療連携室の看護師が入退院に関連した患者サービスの向上、安全・安心・安楽な入院生活のご提供を目指して対応させていただいております。

### お問い合わせ先

地域医療連携室  
TEL. 0126-22-1650

## 編集後記

はあとねっと第10号をお届けします。

今期もインフルエンザが猛威を振るい、まだまだ寒い日が続いています。もうすぐ春がやってきますが、待ち遠しい今日この頃です。地域医療連携室では、「地域におけるかかりつけ医の推奨」をスローガンに「かかりつけ医マップ」を作成し、患者さまにご活用いただいております。また、安心して入院生活をお過ごしいただけるように「入院時支援窓口」の開設を始めました。

今後も「はあとねっと」を通じて、地域の皆さまに新しい取り組みや診療に関する情報をお届けしていきたいと思っております。

鈴木 章彦

## はあとねっと 第10号

2019年3月発行

岩見沢市立総合病院広報委員会

委員長 鈴木 章彦 (副院長)

事務局 地域医療連携室